

日本語の補助動詞テシマウ形式の意味・用法 —日韓の補助動詞の対照に基づき—

鄭世桓(hyeon369@yahoo.co.jp)・上原聡(uehara@insc.tohoku.ac.jp)
東北大学大学院国際文化研究科

1 はじめに

日本語の補助動詞テシマウ形式に関する従来の研究には、テシマウ形式を主にアスペクト的形式としてみなす立場と主にモダリティ的形式としてみなす立場の2つに分かれる。本研究ではテシマウ形式のアスペクト的性質とモダリティ性質を考察するとともに、その性質の相互関係を明らかにすることを目的とする。また、日本語のテシマウ形式に対応する韓国語の補助動詞の意味・用法も考察する。

2 データ

本研究で用いる日本語のデータは手作業によって19作品から収集したものと、『CD-ROM版 新潮文庫100冊』(1995)の中で、手作業によってすでに収集した作品や翻訳作品を除く60作品をコンピュータ検索で収集したものをデータとした。韓国語のデータは韓・日語文章対訳検索システムVer2.0 (<http://www.trankj.pe.kr/>)とKAIST Concordance Program (<http://gensum.kaist.ac.kr/kcp/>)で検索したものをデータとした。

3 先行研究

- ◎ テシマウ形式をアスペクト的形式としてみなす立場
- ・ 金田一 (1955)
 - ① 終結態：ある動作・作用が完全に行われる(継続動詞)
 - ② 既現態：ある動作・作用が実現する(瞬間動詞)
 - ・ 高橋 (1969)
 - ① [終了] うごきがおわりまでおこなわれることをあらわす
 - ② [実現] 過程のおわりとしておこなわれる動作が実現する。
 - ③ [期待外] 期待しなかったこと、よくないことが実現することをあらわす。
 - ・ 吉川 (1971)
 - ① 動作の完了：ある過程を持つ動作がおしまいまで行なわれることをあらわす。
 - ② 対抗的：積極的に動作に取り組み、これをかたづけることをあらわす。
 - ③ 逸走的：ある動作・作用が行われた結果の取りかえしがつかないという気持ちをあらわす。
 - ④ 無意志的動作：動作が無意志的に行われることをあらわす。
 - ⑤ 不都合・反期待：不都合なこと、期待に反したことが行われることをあらわす。
- ◎ テシマウ形式を主にモダリティ形式としてみなす立場
- ・ 藤井 (1992)
 - 話し手の現実に対する感情・評価的な態度：主体の動作・変化・状態あるいは終了を、しくじり、不都合としてとらえる話し手の評価・

失望・困惑・感慨としてとらえる話し手の感情をあらわす

- ・ 鈴木智美 (1997)
- 話者の事態に対する感情・評価的判断・態度を表わす形式
- ・ 倉持 (2000)
- ① 「シマウ」のムードは、予想・予定される事の推移が断ち切られること、つまり一種の心理的「断絶」を本質とする。
- ② マイナス事態の出現にあつては、「元に戻したくても、戻すことができない」と意識され、悲しみ・後悔などを伴う。
- ③ 非マイナス事態の出現にあつては、「もう元に戻す必要がない」「今までの状況に拘束されることがない」と意識され、状況によっては、喜びや安堵感、あるいは驚きを伴う。
- ・ 鈴木英夫 (2001)
- ① 「する形」：動作・状態の生起を表わす
- ② 「てしまう形」：動作・状態の生起について、話し手がその実現に焦点を当てて表現する形式

4 アスペクト観点から見たテシマウ形式

テシマウ形式を主にアスペクト的形式としてみなす立場では、動詞がテシマウ形式をとる際、前接動詞の語彙的な意味によって、継続動詞の場合は「完了」を、瞬間動詞の場合は「実現」を表すとした。しかし、動詞の限界性の観点から見ると、テシマウ形式をとるか否かが必ず動作の「完了」、あるいは「実現」を表すとはいえない。

- (1) 人形を作った。
- (2) 人形を作ってしまった。
- (3) 太郎が死んだ。
- (4) 太郎が死んでしまった。

例(1)(2)の「作る」と例(3)(4)の「死ぬ」という動詞はテシマウ形式をとるか否かと関係なく、動作・作用の「完了」や「実現」を表している。さらに、次の例で

- (5) 私は寝た。
- (6) 私は寝てしまった。
- (7) 私は疲れた。
- (8) 私は疲れてしまった。

この場合、「寝る」と「疲れる」が例(6)(8)のように、テシマウ形式をとるとしても、「寝ることが完了する」「疲れることが完了する」ということを表すとはいえない。従って、テシマウ形式が「完了」、或いは「実現」というアスペクトの意味を担っているという従来の論究は妥当ではないことが分かる。

それでは、テシマウ形式はアスペクト的にどんな意義を持つのだろうか。テシマウ形式はテイル形式と結合できるものである。もし、スル形式とテシマウ形式との間にアスペクト的観点から質の違いがないとしたら、スル形式がテイル形式をとったときとテシマウ形式がテイル形式をとったときもアスペクト的意味に違いはないはずである。しかし、次の例を見てみよう。

- (9) (あれだけおおぜいの神人がむらがっているのだ。おそらく火をつけているか、屋舗を打ちこわしてしまっているか、どちらかだろう) (『国盗り物語』司馬遼太郎)

例(9)の場合、「うちこわす」という動詞は、テイル形式をとって、動作の進行を表わす。しかし、(9)のように、「打ちこわす」がテシマウ形式をとり、それが更にテイル形式をとった場合は、動作の継続ではなく、既に「うちこわす」という動作は完了し、その後の状態が継続すること(現在パーフェクト)を表わす。

このようなことから、テシマウ形式は出来事を、終わりの段階としての「完了」や「実現」ではなく、「出来事の成立」の面に注目して捉えるべきである。ここで、「出来事の成立」とは≪(テシマウ形式が使われている)文が表わす/指し示す出来事が成り立つこと≫を指し示し、テシマウ形式は「出来事の成立」そのものの時点に焦点をあわせて強調する役割を担っており、出来事の成立の時点を明確に表わす役割を担っていると言える。

5 テシマウ形式のモダリティ的観点

それでは、話し手が何故テシマウ形式を用いて、出来事の成立の時点に焦点をあわせるのか。これは、テシマウ形式のモダリティ的観点から考察するべきである。

まず、話し手がどのような出来事に対して、テシマウ形式を使うのか、つまり、テシマウ形式の使用における現実世界の出来事のあり方を考えなければならぬ。ここでは、次のように分類した。

① 話し手にとって始末をつける出来事である場合

動作そのもの、或いは動作を引き起こす原因、きっかけや、動作の対象となるものが話し手にとって、気がかりや負担となるものであって、動作の実行がこのような出来事への始末をつける行為であることを表わす。

- (10) 「——ああ、おれは久しぶりで、いい気持ちになった。おまえには会えなし、胸につかえていたことは、みんな、言ってしまったし、……愛川、笑わないでくれ。——」(路傍の石)

② 話し手にとって無意図的な出来事である場合

自分の意図とは関係なく起こったこととして、本来、コントロール可能な出来事をコントロール出来なかったという認識を表わしている。そのため、コントロール出来なかったことに対するダメージだという感情や、評価が副次的に感じられる。

- (11) 「…略…ですが、御主人のあまりに真剣な目の光に促されて、私は思わず言ってしまったのでございます。…略…」(錦繡)

③ 話し手にとって予想外・期待外の出来事である場合

この場合は、話し手が、普段考えたことのない出来事や、思わぬ出来事が突然生起することを表わす。

- (12) 「人間てね、その時その時で、自分でも

思いがけないような人間に、変わってしまうこともあるのです」母はそうも言った。(塩狩峠)

以上、テシマウ形式の使用における出来事の生起のあり方を分析したが、このあり方の裏面には、話し手の感情や評価的態度がよく付きまとう。これらの感情的・評価的態度は、出来事がどのような状況の中で生起するののかによって、多様な形で現われてくるものである。ここでは文脈の中で、心中表現の根拠となる要素が比較的明確に現われている文を中心として、下記のように分類した。

【1】遺憾

- (13) 「ちょうど冬休みに雪が降ってしまったて残念ですわ。ふだんならきつといい景色なんでしょうね。(エディプスの恋人)

【2】失望

- (14) 「わしはそなたがいつまでも童女でいてくれることを望んでいたのに、そなたは勝手にそのような娘になってしまった」(国盗り物語)

【3】困惑

- (15) でもそうしていると、こんどはますます制作費が高くつくようになってしまったて困っている。(錦繡)

【4】非難・叱責

- (16) 「どうして明子を帰してしまったの」京子の眼は、いまは白く濁ってはいない。(上の植物群)

【5】後悔・自責

- (17) 「…略…どうしてあんな酷たらしいことを言ったのだろう。嗚呼可哀相な事をしてしまった。全く私が悪党を云うた為に民子は死んだ。…略…」(菊の墓)

【6】満足感

- (18) 最も難関と言われたテンシンも、わが兵が敵の城門をうち破って、第一に突入したので、難なく、占領してしまった。…略…」(路傍の石)

【7】驚き

- (19) わたしでよければ、と、待っていたように珠子が、思いがけずあっさりとうそ返事してくれた時には、わたしの方がびっくりしてしまいました。そしてうらたえました。(エディプスの恋人)

6 日本語のテシマウ形式に対応する韓国語の補助動詞

ここでは、日本語の「テシマウ形式」に対応する韓国語の補助動詞を考察する。従来の研究や、韓国人の日本語学習者用のテキストでは、テシマウ形式に対応する韓国語の補助動詞は「a/e polita 形式」であるとされている。しかし、日韓対訳のコーパスを分析した結果、テシマウ形式に対応する韓国語の類型は「a/e polita 形式」以外にも次のようなものがある。

【表1】テシマウ形式に対応する韓国語の補助動詞

I 動詞+아/어 버리다 a/e polita
II 動詞+고 말다 ko malta
III 動詞+아/어 버리고 말다 a/e poliko malta
IV 本動詞だけ
V その他

ここでは、I、IIを中心として考察する。

6.1 本動詞としての「polita」「malta」

『東亜프라임韓日辞典』参考

● 「polita」

1. (不要の物を)捨てる。
2. (悪性格・癖などを)なくす；捨てる。
3. (考え方や要求などを)捨てる。
4. (職業・職場などを)やめて手を切る；やめる。
5. (家庭や故郷などを)見捨てる。
6. 駄目になる；台なしにする
7. (物などを)ほうっておく；ほったらかす
8. (命の語と共に)死ぬの意

● 「malta」

1. (していることを)中断する。
2. (しようとすることを)やめることにする。；止すことにする。
3. ‘말고’の形で使われて「じゃなくて」を表わす。

6.2 形態論的特徴

● a/e polita 形式

- ① 前接動詞：動作動詞/変化動詞

(20) sakwalul meke polita
(リンゴを食べてしまう)

(21) cwuke polita
(死んでしまう)

(22) cillye polita
(飽きてしまう)

- ② テイル形式に対応する韓国語の補助動詞との組み合わせ可否：テイル形式にあたる韓国語は2種類ある。一つは動作の継続を表わす ko issta 形式と、もう一つは状態の継続を表わす a/e issta 形式である。a/e polita 形式の場合は ko issta 形式とは組み合わせるが、a /e issta 形式とは組み合わせられない。

(23) sakwalul meke poliko issta
polye issta(*)

- ③ 【表1】のⅢのように、a/e polita 形式がさらに ko malta 形式と組み合わせると、「a poliko malta」の形でテシマウ形式と対応する。

(24) sakwa-lul meke poliko malta

● ko malta 形式

- ① 前接動詞：動作動詞/変化動詞

(25) sakwalul mekko malta
(リンゴを食べてしまう)

(26) cwukko malta
(死んでしまう)

(27) cilliko malta
(飽きてしまう)

- ② テイル形式に対応する韓国語の補助動詞との組み合わせ可否：ko issta 形式、a/e issta 形式両方ともとらない。

- ③ ko malta 形式は ko malta 形式が先行して a/e polita 形式と組み合わせる、「ko-mala-polita」の形をとらない。

6.3 アスペクト的観点から見た韓国語の補助動詞

基本的にはテシマウ形式のように、a/e polita 形式も、ko malta 形式も「出来事の成立」を表わしているといえる。

(28) 人形を作ってしまった。(=2)

(29) inhyengwul mantule pelyessta

(30) inhyengwul mantulko malassta

しかし、6.2 からわかるように、テシマウ形式がテイル形式をとる場合と、それに対応する韓国語の a/e polita 形式と ko malta 形式は用法において違いが伺える。つまり、日本語の場合は

(31) 人形を作っている。

(32) 人形を作ってしまったっている。

のように、例(31)が動作の進行を表わすのに対して、例(32)は現在パーフェクトを表わす。しかし、韓国語の場合 (ko malta 形式は ko issta 形式と a/e issta 形式をとらないため、ここでは a/e polita 形式だけを言及する)、a/e polita 形式は動作の継続を表わす ko issta 形式とだけ組み合わせる。この場合、前接動詞が ko polita 形式だけをとる動作動詞の場合は、「動詞+a/e poliko issta」も「動詞+ko issta」も動作の継続を表し、この二つの形式の間にはアスペクト的意味の違いが見られない。

(33) inhyengul mandulko issta

(34) inhyengul mandule poliko issta

しかし、そもそも a/e issta 形式をとって状態の継続を表す変化動詞などが a/e polita 形式をとった場合は、ko issta 形式も a/e issta 形式もとることができないため、これらの動詞は a/e polita 形式をとることによってアスペクト的性質が変わることが分かる。つまり、【表2】のように、日本語は動作動詞がテシマウ形式をとった場合にそのアスペクト的性質が変わるのに対して、韓国語は変化動詞や状態動詞 (そもそも a/e issta 形式をとって状態の継続を表す動詞) が a/e polita 形式をとった場合、そのアスペクト的性質が変わるのである。

【表2】テシマウ形式と a/e polita のアスペクト的意味の比較

	日本語		韓国語	
動作動詞	作っている	動作の継続	mandulko issta	動作の継続
	作ってしまったっている	現在パーフェクト	mandule poliko issta	動作の継続
変化動詞	死んでいる	状態の継続	cuke issta	状態の継続
	死んでしまったっている	状態の継続	cuke poliko issta	×

このように、テシマウ形式とそれに対応する韓国語の a/e polita 形式と ko malta 形式の間にはアスペクト的な性質において相違点が見られる。

6.4 モダリティ的観点から見た韓国語の補助動詞

モダリティ的観点では、日本語とそれほど違いが見られない。ここでは、発話時、a/e polita 形式と ko malta 形式の使用における現実世界の出来事のあり方は分析した。

1 話し手にとって始末をつける出来事である場合

(35) theksal mitheyta chelcwulul mayko ellwukcin ipucalilul nele mallintanun phingkyeylo mitatiey hayka tunun kesul maka polenta.

(軒下に有り金をはってしみのついたふとんを干すというのを口實に窓に陽が射すのを遮ってしまう。)

(36) pengerito tonto sasileynun anayeykeyman philyohaci neykeynun aychopute uymika ceyen epsnun kesiessunikka toyl swu issuymen ku pengerilul anaynun aney pangulo kacyekassuymen hako kitaryessta.kulona aneynun kacyekaci anhnunta. …略… kulayse nanun hanun swu epsi pyensoey kacta cipe nehe poliko man kesita.

(貯金箱も金も實のところ妻にとって必要なだけで、私にとっては最初からまるっきり意味のないものだったから、できることならその貯金箱を妻の部屋へもって行ってくれたらありがたいと心持ちにしていた。

ところが妻はもっていかなかった。…略…それで私はしかたなく便所にもって行ってなげ捨ててしまったのだ。)

2 話し手にとって無意図的な出来事である場合 (ko malta 形式の用例は無し)

(37) i casikdul ccakose tongseeyse selo hounghamyenso nalul nollil cackengikuna hako saykaun haysuna maksang ettehkey hayya cohulcilul al swu epsta. solcikhake capaykul hay policiman nanun yongkika issnun taysiney cihyeyka pucokhata

(この野郎申し合せて、東西相応じておれを馬鹿にする気だな、とは思ったがさてどうしていいかわからない。正直に白状してしまうが、おれは勇気のある割合に智慧が足りない。)

3 話し手にとって予想外・期待外の出来事である場合

(38) cikumey wase ilpon tatonun hankwukinI ihayhaki elyewun ilponmunhwaka toye polyessta.

(そうして韓国では年が過ぎるに連れお茶の代わりにお酒で茶礼を行なうようになった 今では日本の茶道は韓国人が理解しがたい日本文化になってしまった。)

(39) ilihaye myech haylul cinaynun tongan kunun tongneyeysenun pathul mos etulmankum insimkwa sinyongul ilhko malassta.

(こうして数年のうちに彼は村では畑を貸してくれる者がなく信用をなくしてしまった。)

以上、日本語の補助動詞テシマウ形式の意味・用法と、テシマウ形式に対応する韓国語の補助動詞 a/e polita 形式と ko malta 形式の意味・用法を考察した。これらの補助形式は本動詞だけでは表わすことの出来ない (+α) 的要素を付け加える役割を担っているため、補助動詞の意味・用法を明らかにするためには補助動詞をとっていない形式との比較を中心とした。

今後の課題として、本研究では触れることの出来なかったテシマウ形式に対応する韓国語の類型において、【表 1】のⅢ、Ⅳ、Ⅴとの関わりを考察することによって、日韓補助動詞の相関関係をより明らかにすることを予定している。さらに、テシマウ形式にとどまらず、テオク形式、テイク/テクル形式、テアル形式などの意味・用法や、それに対応する韓国語の補助動詞との関わりを考察することより、両言語間の類似性や相違点を明確にし、日本語教育や韓国語教育に貢献することを期待する。

《謝辞》

本研究は、東北大学 21 世紀 COE プログラム (人文科学) 「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」の補助を受けて行われています。

《参考文献》

- 金田一春彦 「国語動詞の一分類」『言語研究』15 (1950)
- 金田一春彦 「日本語動詞のテンスとアスペクト」『名古屋大学文学部研究論集』X1955・3 (1955)
- 倉持保男 「補助動詞『～テ』シマウ』について」『日本語 意味と文法の風景—国広哲弥教授古稀記念論文集—』山田進・菊地康人・羽山洋介編 ひつじ研究叢書 (言語編) ひつじ書房 (2000)
- 鈴木智美 「『～てしまう』の意味」『日本語教育』97 日本語教育学会 (1998)
- 鈴木英夫 「『～てしまう』の用法—アスペクト論に関連して—」『言語・文学研究論集』第 1 号 白百合女子大学・文学研究センター (2001)
- 孫仙一 「日本語『～てしまう』のアスペクトの意味に関する研究—韓国語 ‘아/어 버리다’ との対応関係を中心として—」慶尚大校 教育大学院 日語教育専攻 碩士論文 (2001)
- 高橋太郎 「すがたともくろみ」言語学研究会中間報告 (1969)
- 崔昇浩 「『テシマウ』と「 아 버리다」との対照比較考」『名古屋大学人文科学研究』第 2 4 号 名古屋大学大学院文学研究科人文科学研究編集委員会 (1995)
- 古田陵子 「『～てしまうの意味と用法について—『~아(어)버리다』との対照を中心に—」
- 吉川武時 (1973) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」韓国外國語大校大校 日語日文学科 碩士論文

7 終わりに